

年 組 名前:

# カメムシ注意報25府県

## 大量発生、果物被害懸念

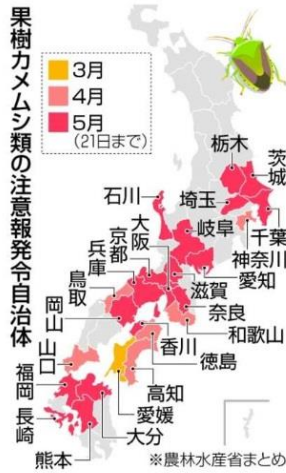
リンゴやナシ、モモなど幅広い果物に被害をもたらす果樹カメムシ類が今年は大量発生し、注意報を発令した自治体が21日時点で例年を大きく上回る25府県に達したことが農林水産省の調べで分かった。通常は少ない春先から各地で多数確認される異常事態で、夏の産卵期を経て、さらに広がる恐れがある。温暖化などの影響で越冬した成虫が増えたとみられ、農家は薬剤散布や果実への袋かけといった対策を迫られている。

## 温暖化で越冬増加

果樹カメムシ類は収穫前の 必要な害虫として、チャバネアオ果実の汁を吸い、変形や落果 オカメムシ、クサギカメムシ、被書を及ぼす。特に警戒が必 ツヤアオカメムシの3種類が



特に注意が必要とされる（上から）チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ



挙げられている。注意報は重要な病害虫の多発が予測され、早めの防除措置が必要の場合に発令する。今年3月22日の愛媛県を皮切りに4、5月にかけて関東から九州の各地に広がった。ナシなどの産地で知られる千葉県は10年ぶりとなる注意報を今月発令した。4月に県内10カ所で行った調査で、平年の7倍以上ものカメムシが捕獲されたためだ。

農水省によると、昨年までの10年間で1〜5月に果樹カメムシ類の注意報を出した都道府県は平均で5程度にとどまり、最も多い年でも15だった。山梨県病害虫防除所によると、県内は平年に比べ「やや多い」状況となっている。南アルプス市と甲州市の2カ所で10日に調査していて、直近では南アルプス市で平年の2倍程度、甲州市はほぼ平

年並みだった。注意報は発令していない。農作物の大きな被害も確認されていないという。県内各JAは一斉防除を呼び掛けている。防除所担当者は「今後調査や病害虫防除員からの報告で状況を把握していく」と警戒を強めている。大量発生には複数の要因が指摘される。石川県立大の弘中満太郎准教授（応用昆虫学）によると、昨年は餌となるスギヤビノキの実が多く、個体数が元々増えていた。そこに暖冬が重なり、越冬する成虫が増えたという。足元の大量発生は温暖な西日本が中心だが、過去には山形県や福島県など気温が低い地域で注意報が出た例もあり、東北でも警戒が必要だ。

(2024年5月22日付 山梨日日新聞 21面)

問1 果樹カメムシ類が、今年は大量発生しています。果実にどのような被害を及ぼしますか。

.....

問2 農家は、どのような対策が必要ですか。

.....

問3 大量発生には複数の要因があるようですが、石川県立大の准教授は、その原因について、どのように話していますか。

.....